第3回 日本耳介再建研究会

Japan Society for Auricular Reconstruction

耳介再建×激論

2019.11.8fri-9sat

プログラム・抄録集

[会　場]札幌医科大学医学部
[会　長]四ッ柳　高敏
札幌医科大学医学部 形成外科学講座 教授

第３回 日本耳介再建研究会 開催報告

目　　次

1、　研究会日程表

2、　症例検討会プログラム

3、　参加者名簿

4、　Photo コーナー（研究会の様子）

5、　参加者の感想

6、　主催者から

1、研究会日程表

第1日目　11月8日（金曜日）

13:00～18:00 （予定）	**ライブサージャリー** 「小耳症　肋軟骨移植術」 場所:記念ホール 会議室A ⇔ 附属病院手術室 会場モデレーター:静岡県立こども病院形成外科　加持秀明 手術室モデレーター:岡山大学形成外科　妹尾貴矢 執刀医:四ッ柳高敏
18:00～18:30	**意見交換会** 場所:記念ホール 会議室A 司会:札幌医科大学形成外科　四ッ柳高敏
19:30～	**総合懇親会** 場所: さっぽろっこ 札幌市中央区南 4 条西 3 丁目 第 2 グリーンビル 2F 050-5571-9013

第2日目　11月9日（土曜日）

09:00～12:00	**症例検討会** 場所:記念ホール　大ホール
12:15～13:15	**教育講演** 「一人のマイクロサージャンが考える、先天異常症の再建術、 整容と機能の改善を目的としたAYA世代の二次再建術」 場所:記念ホール　大ホール 演者:東京大学大学院医学系研究科形成外科学分野 岡崎　睦
13:30～15:30 （予定）	**ハンズオンセミナー** 「肋軟骨フレームカービング」 場所:記念ホール　会議室A

※症例検討会の休憩時間に、集合写真を撮影

2、症例検討会プログラム

開会の挨拶　　札幌医科大学形成外科教授　四ッ柳高敏

演題第1部　　座長　鳥谷部　荘八（仙台医療センター　形成外科手外科）

1. Polyotia （Mirror ear）を疑う複雑な副耳様構造物の3例に施行した手術を振り返る
岡山大学　形成外科
○妹尾貴矢、川本幸司、徳山英二郎、山田潔、木股敬裕

2. 小耳症肋軟骨移植後フレーム露出に対する陰圧閉鎖療法（NPWT）の経験
筑波大学医学医療系形成外科
○佐々木薫、佐々木正浩、西嶌暁生、大島純弥、明星里沙、埴原弘直、相原有希子、関堂充

3. 小耳症再建後に生じた軟骨フレームの露出感染例に対する再移植の経験
医療法人社団茉悠乃会　船橋ゆーかりクリニック
○寺田伸一、寺田茉位子

4. 耳介 2／3 欠損に対するプロリーンメッシュを用いた耳介再建の経験
医療法人社団茉悠乃会　船橋ゆーかりクリニック
○寺田伸一、寺田茉位子

5. 側頭頭頂筋膜弁を用いて一期的に再建した外傷性耳介欠損の一例
川崎医科大学　形成外科学教室
○小倉　千佳、稲川　喜一、大杉　育子

6. 耳甲介軟骨移植を選択した耳介低位を伴った耳甲介型小耳症の 1 例
香川大学　形成外科
○濵本　有祐、玉井求宜、木暮　鉄邦、松本　絵里奈、工藤　博雄、三柳　友樹、永竿　智久

写真撮影（約10分）

休憩（約10分）

演題第2部　　　　　　　　　　　　**座長　玉田　一敬（東京都立小児総合医療センター形成外科）**

7. 耳介前面の皮膚欠損に対する耳後部皮下茎皮弁の安全な作成法

仙台医療センター形成外科手外科
○鳥谷部荘八、伊師森葉、水上秀也
石巻赤十字病院形成外科
天羽健一
仙台形成外科クリニック泉中央
牛尾茂子

8. 小耳症に合併した耳瘻孔症例について

愛媛大学医学部附属病院形成外科
○松本麻由、眞田紗代子、戸澤麻美、泉本真美子、木村千寿、森秀樹、中岡啓喜

9. 患児とその家族背景を鑑みた小耳症手術、手術適応年齢を考察する

明和病院　形成外科
○蔡　顯真、田原真也、平井優樹、松森万里子
神戸大学附属病院　形成外科
寺師浩人

10. 信州大学における小耳症の術式と今後の展望

信州大学形成外科
○高清水一慶、杠俊介

11. われわれの耳介形成術の変遷　―札幌医大形成外科見学前とその後―

大阪医科大学　形成外科
○塗　隆志、上田晃一

3、参加者名簿

全国よりお越し頂いた先生方	36 名
札幌医科大学事務局(医師、事務)	12 名
札幌医科大学医学生	3 名
札幌医科大学看護師	2 名
合　計	53 名

氏名　＊50 音順　敬称略	所属
飯田　拓也	東京大学
石垣　達也	千葉県こども病院
稲川　喜一	川崎医科大学
岩上　明憲	獨協医科大学
植村　法子	東京医科歯科大学
大杉　育子	川崎医科大学
岡崎　睦	東京大学
小倉　千佳	川崎医科大学
笠井　昭吾	琉球大学
鎌田 将史	東京歯科大学市川総合病院
加持 秀明	静岡県立こども病院
川本　幸司	岡山大学
楠目　信三	特定医療法人研精会　箱根リハビリテーション病院
蔡　顯真	明和病院
櫻庭　実	岩手医科大学
佐々木　薫	筑波大学
眞田 紗代子	愛媛大学
妹尾 貴矢	岡山大学
高清水 一慶	信州大学
玉田 一敬	東京都立小児総合医療センター
寺田　伸一	船橋ゆーかりクリニック
寺田　茉位子	自治医科大学
寺邑　千尋	東京医科歯科大学
戸澤 麻美	愛媛大学
富田　早紀	愛知医科大学
鳥谷部 荘八	国立病院機構　仙台医療センター
西端　和哉	にしばた形成外科クリニック
沼畑　岳央	東京大学
塗　隆志	大阪医科大学
野村　和徳	明和病院　形成外科
花井　潮	東海大学
濵本 有祐	香川大学
平山　泰樹	兵庫県立こども病院
松谷　瞳	静岡県立こども病院
松本　麻由	愛媛大学
三浦　孝行	平鹿総合病院

4、Photo コーナー（研究会の様子）

■1日目 ： ライブサージャリー

「小耳症（耳甲介型、low hairline、 low set ear） 肋軟骨移植術」

手術室と会場を「ライブカメラの映像」と「音声」でつないだライブサージャリー。
手元に置かれた大きなモニターから、鮮明な映像が配信されており、映像を見ながら執刀医とのディスカッションが可能です。
また、前方後方3ヶ所のモニターから、肋軟骨採取の様子も配信されています。
今回の症例は、小耳症手術の中で最も難易度が高い low hairline、low set ear。
そのため、ライブサージャリー開始前には、執刀医の「手術計画と手順」の資料が配布されました。
執刀医との活発な質疑応答がなされ、3時間30分のライブサージャリーとなりました。

1台のモニターを4～5人の先生で、ご覧頂きました

□ 1日目 ： 意見交換会

今回が3回目の開催である「日本耳介再建研究会」。
全国の耳介再建に興味のある先生方と一緒に作り上げていくため、意見交換会では今後の改善点やご希望を伺っています。頂いたご意見・ご希望を第4回に繋げ、より有意義な会にしたいと思っています。

・研究会から学会へ名称変更が承認されました。第 4 回目より「日本耳介再建学会」となります。
・第 4 回目の開催は 2020 年 11 月 27 日(金)、28 日(土)に決定しました。

□ 1日目 ： 総合懇親会

北海道の海の幸を楽しみながら、ゆっくりと情報交換できた会になったのではと思います。
今年度はくじ引きでの席決めを行いましたが、どのテーブルも笑顔に溢れていました。
1 次会、2次会ともに多くの先生方にご参加頂き、とても盛り上がりました。

□ 2日目 ： 症例検討会

耳の治療に熱意を持った先生方が、本音でディスカッションする症例検討会。
症例検討会は日本耳介再建研究会の目玉の一つです。
通常の学会では成功症例の発表が多い中、本会ではうまくいかなかった症例や相談症例の発表も多く行われています。また、若手の先生向けの発表や現在と過去の手術法の違いなど、内容が多岐にわたり、ますます有意義な症例検討会となりました。

□ 2日目 ： 教育講演

東京大学大学院医学系研究科形成外科学分野教授の岡崎睦先生に「一人のマイクロサージャンが考える、先天異常症の再建術、整容と機能の改善を目的とした AYA 世代の二次再建術」についてご講演頂きました。小児期から AYA 世代と言われる若年を中心とした顔面の手術において、時期や内容に悩むことも多いですが、機能はもちろんのこと特に整容面でも様々な工夫について貴重なお話を伺うことができました。

□ 2日目 ： ハンズオンセミナー「人参を用いた小耳症軟骨フレームカービング」

肋軟骨に近い感触を持つ人参と彫刻刀を使用し、肋軟骨フレームを作成します。
今回は香川大学 濵本先生が3Dプリンタを使用して作られたという耳型模型あったため、より立体感などのイメージがしやすかったようです。フレームが出来上がったあとは陰圧をかけて、よりリアルに耳の凹凸の出方を感じて頂きました。

5、参加者の感想

1．筑波大学　形成外科　佐々木　薫先生より

　昨年に引き続き 2 回目の参加をさせていただきました。この時期の形成外科の関連学会はたくさんありますが、そんな忙しいスケジュールを縫って集まってくるのは耳にアツい先生たちばかりで、必然的に研究会も活気のある会となりました。昨年よりも参加者が増え、ますますアツい会であったと感じました。今回の研究会には私は 2 日間にわたって参加させていただきましたのでその詳細を述べたいと思います。

■1 日目

1）ライブサージャリー

　ライブサージャリーは小耳症肋軟骨移植術でした。しかも Low hairline　&　low set ear の症例で、さらに一度耳鼻科により手術がなされ、瘢痕がちがちの最高難度の症例でした。会場モデレーターは静岡県立こども病院形成外科　加持秀明先生、手術室モデレーターは岡山大学形成外科妹尾貴矢先生により会場と手術室で空気感を共有しながらの数時間を過ごしました。手術中に自由に質問ができ、疑問をすぐに解消できる環境でした。会場は複数台の大きなモニターの前に4，5人が配置されるような形で、モニターの見づらさは全く感じませんでした。手術は 4 時間を超える長さでしたが、お菓子飲み物なども用意され至れり尽くせりの環境でした。手術は、瘢痕の中の耳甲介にぎりぎりの血流を保ちつつ、迷いなく進むメス、ハサミの剥離の捌きはさすがでした。

2）意見交換会

　手術を終えられた四ツ柳先生が会場に来られ、会の主旨、運営方針、今後の見込みなどについて参加者の方々に報告されました。来年？からは学会認定の会として学会の点数なども取れる会になるようです。そして研究会から学会へと名称変更されるようで、今後ますますしっかりとした会になりそうです。個人的にはマニアックな人たちのこぢんまりとしたマニアックな議論が好きなので、どのように変わっていくのか興味があるところです。今の会の良さを伸ばしつつ、さらなる発展に期待しています。

3）総合懇親会

　やはり食事の美味しい北海道ですから、とても楽しみにしていました。知り合いだけで偏らないようにバランスよく席決めできるような配慮が素晴らしいなと感じました。個人的には数名の先生方との新しい出会いがあったり、今までお知り合いだった先生方の普段見せない意外な一面を拝見したり、もちろん食事も美味しくいただきまして、いろんな意味で楽しませていただきました。そして二次会。たくさん飲んだのであまり内容は覚えておりませんが、マイクを握らされたような記憶はあります。最後はとどめのラーメンのフルコースで 1 日目を終了しました。

■2 日目

1）症例検討会

午前中は症例検討会でした。普通の学会と異なり、多少の時間は気にしないでとことん議論するスタイルの検討会でした。私も 1 演題発表させていただきました。うまくいかなかった症例のリカバリーの話であり、言ってみれば失敗症例になるわけなのですが、いろんな建設的なたくさんのご意見、ご質問を頂くことができました。他の先生方の発表からもたくさんの気づきと刺激をいただきました。

2）教育講演

東京大学形成外科の岡崎睦教授による教育講演が行われました。若年者の顔面低形成、顔面神経麻痺に対する、マイクロサージャリーを用いた再建手術についての様々な症例、考え方を聞くことができました。印象深かったのは、機能、整容ともに『自然さ』を追及しているところがとても印象に残りました。とってつけたような変化ではなく、ささやかだけれども確実な改善を目指す考え方に大変共感しました。

3）ハンズオンセミナー

ハンズオンセミナーは昨年同様『肋軟骨フレームカービング』でした。2 日間寝かせたニンジンを用いて、ニンジンフレームを作成しました。やっぱり糸でくみ上げるのは難しいですが、糸で組むフレームワークの良さと可能性を感じました。このセミナーは昨年も経験させていただいたので 2 回目の参加でしたが、今年もまた新たな発見がありましたので、来年もまた参加させていただこうと思っています。

昨年、今年と 2 回この研究会に参加して、この研究会の素晴らしい点を3つ述べたいと思います。

1 つは耳の形成外科治療において圧倒的な症例数を誇る札幌医大の四ツ柳先生自ら、その技術、知識を惜しみなく伝えてくれることです。封建的な外科の世界では、その技術は一子相伝と言っても過言ではありません。さらにその対象が年間 200 人に満たない希少な疾患であることを考えると、この会の貴重さは言うまでもありません。

2 つ目は、会に参加すると『日本の耳介再建のレベルを上げること』そして『小耳症患者さんの幸せへ貢献すること』を目標にしていることが感じられることです。昨今、権力争いの種になりがちな学会が多い中で、常に医療現場の最前線からの視点を持った、本来の学会・研究会のあるべき姿を体現した会であるとひしひしと感じます。

3 つ目は札幌医大の医局の雰囲気、先生方の人柄です。こちらが教わることばかりにもかかわらず、様々なご配慮を頂きました。私は実は会の 3 日前から札幌医大にお世話になっておりまして、手術見学、外来見学などさせていただきましたが、とても居心地が良い医局でした。しばらく札幌にいると居心地がよくなって帰れなくなりそうです。

昨年、今年ともにこの研究会のタイミングで初雪でした。やっぱり寒い北海道ですが、寒さを吹き飛ばすくらいのアツい耳の会からは、しばらく抜け出せそうにありません。最後になりますが、このような素晴らしい研究会を企画運営していただきました四ツ柳先生はじめ札幌医大の先生方に本当に感謝いたします。

2. 琉球大学医学部附属病院形成外科 笠井 昭吾先生より

昨年に引き続き、第 3 回日本耳介再建研究会に沖縄から参加させていただきました。

札幌医科大学形成外科の皆様、大変お疲れ様でした。非常に有意義な勉強の場を与えていただいたことを心より感謝いたします。

今年は 11 月上旬と開催時期がやや早く、日中は温暖で上着がいらないほどでしたが、夜の札幌はやはり冷え込み、懇親会の時間には雪がちらちら降っておりました。

初日のライブサージャリーは、四ツ柳先生をはじめとした札幌医科大学チーム執刀の手術を、ライブカメラを通して会場で視聴し、会場・手術室それぞれのモデレーターの先生を中心に、ディスカッションを交えながら進めてゆく方式で行われました。会場の各机に配置されたライブモニターは非常に大きくなり、軟骨採取の録画映像が常時流されるモニターの数も増え、どこを向いても耳の手術が目に入る、というありがたい状況になっておりました。主催の先生方の、昨年以上に良い会を創り上げんとする意気込み、我々に対するご配慮を強く感じました。

今年の手術は、low hair line、low set ear の患者さんに対する肋軟骨移植でした。私は幸運にも過去に沖縄で、low hair の患者さんに対する四ツ柳先生の軟骨移植を拝見する機会に恵まれたのですが、一般にはなかなか経験することが少ない症例であると思われます。今回の患者さんは、さらに真珠腫の術後という極めて難しい状況であり、その瘢痕のため残存耳甲介や耳垂の可動性が悪く、四ツ柳先生が剥離を追加するたびに会場には緊迫した空気が流れておりました。それでも、13 時に始まった手術は予定よりも早く、17 時には終了してしまい、四ツ柳先生の神業はもちろんのことですが、文字通り目にもとまらぬ速さで肋軟骨を採取し、側頭筋膜弁を挙上した北田先生の妙技にも、会場の誰もが舌を巻いておりました。改めて耳介再建チームとしての札幌医科大学形成外科の凄まじさを実感いたしましたが、欲を言えば、複数ある術野のすべての状況が会場から視聴できるようになると、なおありがたいと思いました。

2 日目の症例検討会では、各施設から、治療に難渋した症例の報告や長期経過、症例相談などが提示され、終始和やかな雰囲気の中で意見交換が行われました。続いて、東京大学の岡崎先生から、若年者に対する主に遊離組織移植を用いた再建手術、特に小耳症関連では顔面神経麻痺に対する筋移植などについて、多くの大胆かつきれいな症例とともにご講演いただきました。

ハンズオンセミナーはすでにおなじみとなっている人参教室でした。干した人参は手術適齢期の肋軟骨の質感にかなり近く、無尽蔵に使用できるという点を除けば(実際には各自がいったん軟骨の形に切り出してから始めればよいだけかもしれませんが)、非常に良いシミュレーション材料だと思います。どこでも簡単に反復練習が可能であるため、沖縄でもより実際の手術に近い状況を想定しながら精進してゆきたいと思います。

最後に、来年からは呼称が日本耳介再建「研究会」から、日本耳介再建「学会」へバージョンアップされる、とのことです。今後の学会、そして日本の耳介再建のますますの発展をお祈りいたします。来年も是非参加したいと思います。

6、主催者から

札幌医科大学　形成外科　　四ッ柳高敏

この度も多くの先生にお集まりいただき感謝申し上げます。耳の治療に対して真摯に取り組んでいる先生が集まって困った症例を相談したり、知識や技術を向上する場を作ることが、当初からの本会の趣旨ですが、徐々に全国の耳をやっている先生たちに集結いただけるようになってきたことは私にとって非常に喜ばしいことです。1 回目から継続して参加してくださっている先生に加え、色々な施設からの新しい先生たちの参加が増え、期待通り熱気のある盛況な会になったように思っております。

小規模な会ではありますが、主催者側としては、出席者の皆様にとって少しでも快適であるよう、そして実りがあるよう入念に準備をしてきました。

事務局長の山下は、会場を抑え、全行程の準備の設計図を作り、全員の役割分担を決め、ライブサージャリーで音と画像がきちんと作動するか確認し、弁当の手配まで(…これは趣味の域！)…臨床の仕事だけでアップアップしてる中でずっと頑張って準備してくれました。教授秘書の菊地は、ポスター（センスが良いと評判のポスターですが、これは 1 回目から全て彼女が作っています）作成に始まり、全体の流れから細かな準備に至るまで見落としがないようサポートをしてくれています。若い先生たちも頑張って人参を切ったり耳型を作ったり二次会のセッティングをしたり。内容的にも去年の反省をもとに、ライブサージャリーの画面を大きいものに変えたりなど、ちょっとずつ進化してきていると思います。

今回の唯一の誤算は、要だった教授秘書の菊地が直前にインフルエンザでダウンしてしまったことで、事務局長の山下は青ざめ、教室の先生たちも教室秘書の竹下も、やばい･･･という雰囲気になったのですが、これで全員が危機感を持って対応してくれたので、2 日間大きなトラブルなく終えることができました。

ライブサージャリーは本学会のメインイベントの一つなのですが、今回の症例はかなり厳しかったです。とにかく恐らく小耳症の中でも最も難しく、あまり経験のある医師も多くないタイプの、Low hairline、concha type、low set ear の患者。これだけであれば、見ごたえのある手術ではあるものの、私としては遺残耳介を華麗に動かして対応できる想定内だったのですが、実は 1 年前に真珠腫に対し外耳道の閉鎖が行われたことで、遺残耳介が軟骨下でがっちり癒着していて、まったく剥離をしても動いてくれないという 3 重苦どころか 4 重苦くらいの症例になってしまいました。

かなり苦労したわけですが、それでも被髪部皮膚の切除、遺残耳介の移動、対側耳介皮膚の採取、軟骨フレームの組み立て、移植、皮膚移植、と私が手術を進める一方で、当科の誇るモンスター、北田が 30 分で 3 本の肋軟骨を採取したのみならず、私が軟骨フレームを組み立てているうちに TPF を挙上し、洗浄、止血、頭皮の縫合、とあっという間に仕上げてしまったからこそ成立したわけです。麻酔科の先生や手術部のスタッフも非常に好意的に協力してくれた結果でもあります。

初回から参加の先生たちにはライブのモデレーターや座長等を分担いただくなど種々ご協力いただきました。ご参加の皆様にも速やかな進行にご協力いただき、改めて感謝申し上げます。

また、今回の研究会のトピックスとして、東大の岡崎教授に急遽教育講演をお願いしました。元々札幌医大に非常勤講師として学生講義に年1回来ていただいているのですが、本年春にお越しの際に、勢いでお願いしてみたところ、岡崎先生もお酒の勢いでついつい OKしてしまったところから始まった話です。

内容に関しては、耳の周辺領域、という以外は未知だったのですが、かなり細部までこだわった形成外科医らしい丁寧な再建症例を見せていただき、彼の熱いハートと技術が伝わってきて、非常に素敵な内容でした。

話が長くなるのでその他細かなことは割愛させていただきますが、来年第 4 回からは、晴れて“日本耳介再建外科学会”に名称変更することになりました。耳に力を入れている先生、耳に興味を持っている先生たちには是非とも参加いただき、耳のことだけ考える 2 日間を一緒に過ごしませんか。